

第二章 演習 2－8 解答例

問 1

現在、営業事務職に就いているが、このまま続けていても専門性もつかず、給料も上がりそうにない。会社からは総合職への転換を勧められているが、転職前の多忙な生活に戻りそうで躊躇している。転職するなら年齢的に今が最後という気もするし、一方で家業を継ぐ気持ちもあり、どうするのがよいか悩んでいる。

問 2

営業事務職は専門性がないという解釈から、仕事理解不足が見受けられる。総合職への転換を勧められた理由や転換後の働き方について会社と十分に話し合えておらず、期待された役割への理解不足やコミュニケーション不足が見受けられる。家業に興味がないと言いながら、家を継ぐつもりだという発言や、転職の理由が年齢である点などから、キャリア・ライフビジョンの検討が不十分である。

問 3

（目標）相談者が自己理解や仕事理解を深め、会社や家族とのコミュニケーションも充分に取ったうえで、事務職に留まるか、総合職に転換するか、また、転職や家業を継ぐことも含めて納得のできる意思決定を下せるように支援する。

（方策）今の仕事にやりがいを見いだせないことに悩みながらも働き続けている相談者を労い、仕事や生き方に対する思いを傾聴する。相談者と目標を共有し、職歴の棚卸しによる強み弱みの確認や職業適性検査の実施により、能力を活かせる働き方について検討する。総合職を勧める理由や、総合職・事務職のキャリアパスなどについては人事部と、家業を継ぐことについては両親と話し合ってみるよう促す。相談者の年齢層での転職情報の提供を行う。これらのことにより、相談者が自身の価値観に照らし合わせたうえで、今後の働き方について意思決定できるように支援する。